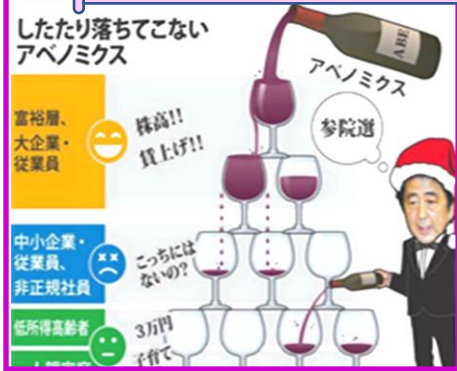


安倍政権の6年間は 何だったのでしょうか？



文責・HN【オニヤンマ】

◆ 2012年12月から現在まで、第2次安倍政権(第1次は2006年9月～2007年8月)は6年余り続いています。この間の安倍政権の問題点を縊ざらいしてみましょう。

◆ まず、「安倍1強多弱政権」と言われるように、この6年間に行われた4回の国政選挙(衆議院・参議院選挙)で4連勝し、衆院・参院の議席の3分の2を自公両党で占めています。小選挙区制・政党助成金・内閣人事局によって政権に権力を集中させ、独裁体制に近づけました。そのため、国会運営が強引・ずさんに行われ、野党の質問に対してまともに答弁せず、提出した資料やデータも間違いだらけ、大島衆議院議長でさえ、「民主主義の根幹を揺るがす」と苦情を呈しました。つい最近の政府経済統計のずさんさには国民の78.8%が「政府統計を信用できない」と回答しました(共同通信世論調査1月13日)。



安倍首相は
今までで最悪の
総理です

◆ 森友学園、加計学園問題については、国民の約80%が、「政府の説明に納得できない」と答え、安倍政権が国政を私物化しているとの不信がひろがりました。公文書の改ざん・隠ぺいが次々と明らかになり、国民の政治不信は深まりました。政治家・官僚の倫理感喪失は社会全体に感染し、蔓延しました。

◆ 戦前の「大日本帝国」再現を夢想する安倍政権は、朝鮮半島の非核化に背を向け、韓国・北朝鮮・中国との対立をあおり、7年連続で防衛費(軍事費)を前年増とし、過去最高額を更新中です。2019年の予算は5兆2574億円。歴代政権がこれまで否定してきた敵基地攻撃能力、攻撃型空母、垂直離着陸戦闘機、イージスアショアなどの保有が進み、沖縄県民が反対する辺野古新基地建設のための土砂投入を強行しています。その一方で、大企業や高所得者に大幅減税を行い、弱者には社会保障費を削って格差と貧困を拡大しました。

◆ 「三本の矢」、「一億総活躍社会」、「働き方改革」、「地方創生」等々、言葉だけの空しいスローガンを打ち上げ、国民に期待を持たせましたが、それらのどれも実現していません。紙幣を大量に印刷して需要を喚起するアベノミクスは将来世代につけを回す禁じ手の経済政策ですが、今、破たんしつつあります。景気や生活が良くなったと実感できない人がほとんどです。



◆ もう、安倍政権は限界です。「安倍首相は今までで最悪の総理です」と益川敏英さん(2008年ノーベル物理学賞受賞)は言います。今年は「**最悪の総理**」に退陣してもらおう年にしましょう!

NO. 142 (2019年1月17日)

やさしさ —平和への道理と心構え—

【伊東武是】さんからの投稿です

憲法の精神を
政治の基本にしないと
ダメにゃん!



▼先日、朝のNHKニュースを見ていたら、アメリカの世界的大歌手レディー・ガガさんがインタビューに答えて「やさしさは感染症です」と述べていた。ひとりが周りの人に「やさしさ」を示したら、これを受けた人は幸せな気分になって、そばの人にやさしく接したくなる。そうして、やさしさ・親切が伝染していく。そんな内容だった。

▼大変いい話である。同時に、日本国憲法9条の精神をも見事に言い表すものではないかと感じた。「軍拡」には「軍拡」で応じがちな危うい政治世界にあって、その道をとらず、「軍備」の代わりに「交渉」つまり「やさしさ」で紛争を解決しようとするのが憲法9条の精神は、その「やさしさ」が相手にも伝わり、相手も「交渉」に乗ってきて平和的解決に導く。そうした道理に基づく政治の方針を示しているのだ。ガガさんの言葉は人間社会で「仲よく平和」に暮らすための最も大切な「道理・心構え」を彼女の感性のもとに表現したものである。この「道理・心構え」は憲法前文の「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して」とも通底している。



やさしさは
感染症です

いじめられた時
どうしていいかわからないの

▼考えてみれば、争いの絶えない人間の世界にあって、その「道理・心構え」を説く言葉は昔からある。誰もが知っている「右の頬を殴られたら左の頬を差し出せ」との聖書の有名な一文。わが国の「和をもって貴しとなす」、「負けるが勝ち」などの言葉。論語にも「君子は争うところなし」との教えがあるという。

▼この「道理・心構え」は、思想的に「保守」とか「無関心層」と言われる人たちも尊重せざるを得ない。平和は保守、革新、無関心層を問わず、すべての人々の願いだからである。

憲法9条に自衛隊明記を狙う一部保守の人たちの改憲案は、争いや喧嘩を好む好戦タカ派の人たちのものである。他方で、平和を大切に、ガガさんの「やさしさ」に共鳴し、「道理・心構え」を政治の基本に据えるべきではないかと考える保守・中道派の人々も、少なくないと思われる。それを口にするかどうかは別として。国会で3分の2の圧倒的多数を占めながら、改憲のための国会発議が思うに任せない背景には、保守・中道政治家たちの隠れた、

しかし案外根強い「道理・心構え」もあるのではないかと私はひそかに思っている。

▼ただ、こうしたハト派の保守・中道の人たちの考えは、「アジアにおける中国の台頭」などという現実政治の前に動揺しがちである。

私たち護憲派は、国民の中にある、平和志向であっても動揺しやすい保守・中道の人たちをしっかりと支え、自信を持たせる運動を考えなければならない。なにせ憲法改正の国民投票では、国民の過半数を獲得しなければならないのだから。

